

長崎県五島市で、島内の職人不足の解決策として、大工等の職人に特化したワーケーションの事業モデルの構築を検討し、島内外の事業者との連携体制づくりと、島外職人に対して行ったアンケート調査から職人向けの研修プログラム案の提案を行った。

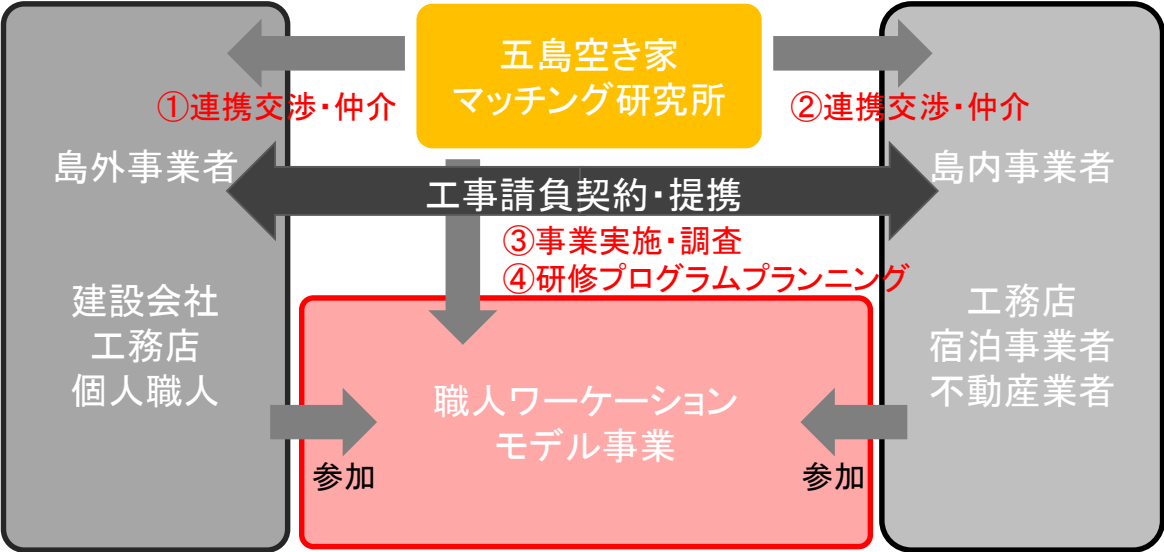
■ 事業概要

事業部門	部門3)ポストコロナ時代を見据えて顕在化した新たなニーズに対応した総合的・特徴的な取組を行う事業
事業地域	長崎県五島市
背景・課題	今回の事業を通じて解決する課題は、島内の職人不足である。五島市において、2021年度の空き家バンク登録数は91件と過去最高を記録し、当該団体の活動も合わせて、空き家の掘り起こしや空き家の利活用の数は年々増加傾向にある。しかし、空き家の利活用の際に必要な改修工事が、島内の大工や左官をはじめとする職人不足により、工期が遅延することが多々あり、顧客への納期を明確にすることさえ困難な状況になっている。特に大工は、改修工事で主要な役割を果たし、DIYによる改修工事ですえサポーター役として不可欠な存在であるが、五島市のような離島部においては、台風等の自然災害も多く、災害復旧工事の対応に大工のほとんどが手間を取られており、さらに問題が深刻化している現状にある。
目的	この課題に対して本事業は、コロナ感染拡大前から主にIT関連のワーケーション事業を強く推進している五島市、長崎県と連携して、大工等の職人に特化したワーケーションの事業モデルを構築することで、次年度の本格的な事業化への足掛かりとすることを目的とする。さらに、次年度以降の発展事業を見据えて、もう一步踏み出し、ワーケーションによる職人の受け入れのみならず、五島市の改修工事現場を新たな職人育成や技術交流の場とした研修先として、独自の職人研修プログラムのプランニングを行う。
連携する団体・役割	五島市、長崎県、国立大学法人九州工業大学

■ 事業のフローについて

本事業の具体的な取組内容については、以下の通りである。その構成としては、右図の通りとなる。当団体が仲介役となり、島外事業者と島内事業者を繋ぎ、島内での工事現場において、職人向けワーケーションモデル事業の実施、そしてそこからの知見を元に本事業モデルの構築を図るものである。

- ①職人向けワーケーションの連携候補となる島外事業者へのアプローチ
- ②職人向けワーケーションの受け入れに関する島内調整
- ③職人向けワーケーションモデル事業の実施
- ④職人研修プログラムのプランニング



■ 取組内容と成果

①職人向けワーケーションの連携候補となる島外事業者へのアプローチ
過去に工事受発注等取引実績がある、交流がある島外工務店、職人、専門学校等の洗い出しとワーケーションの連携先としての交渉。行政主催の各種ワーケーションイベントとタイアップしたPR活動及び連携先掘り起こし。

7-10月にかけて、過去に五島での工事受発注取引実績がある島外工務店や、五島市ワーケーション事業関係者や団体メンバーと交流がある島外工務店を中心に洗い出し、10社と交渉を行った。交渉先の内訳としては、長崎県内7社、福岡県内3社である。交渉先全体を通して、概ね五島での工事を請け負うということに対して、地元での現場との調整や、五島での工事の規模や経費等のハードルがあるものの、五島側での協力体制があればできないことはないといった、本取組に前向きな姿勢があることが確認することができた。

また本事業モデルの発展形として、職人研修プログラムのプランニングについても検討しており、技術者養成機関の1つとして、県立の技術専門学校についてもヒアリングを行った。在校生には企業へのインターンシップは積極的に促しているとのことで、本取組での協力体制が構築できるか検討したいところである。ただ現状としてはインターン先では主に現場見学がメインで、実務を行うまではいっておらず、また受入先企業の体制状況にも関わってくるとのことで、研修プログラムのプランニングに向けての課題を把握することができた。



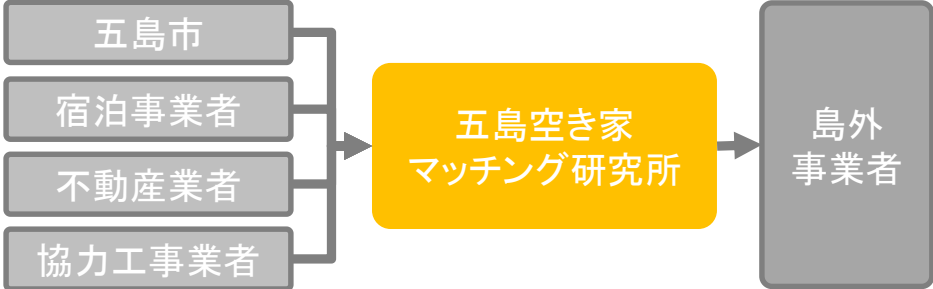
視察及び交渉風景

②職人向けワーケーションの受け入れに関する島内調整
ワーケーションの受け入れ実績を持つ、または受け入れ可能な物件オーナー及び宿泊施設との提携。ワーケーション職人が滞在時に利用可能なサービス等の情報整理、提供など、受け入れ準備。

島外事業者や職人らの滞在先等の手配は、五島市が他業種においてすでにワーケーション受け入れた実績があり、その情報提供などの協力を仰いだ。また当団体と交流がある、中長期滞在型宿泊施設の運営事業者へ本事業説明を行い、優先的に宿泊予約ができたり、島内での公共工事で宿泊してくる島外事業者を紹介してもらおう、といった協力要請を行い、その了承を得ることもできた。当運営事業者の中には、現在2件の同様の宿泊施設を整備しているところもあり、今後、本事業を継続していく上で、重要なパートナーになりえそうである。また、当団体メンバーの不動産会社や五島市の空き家バンクの物件情報、及び島外事業者滞在先時に利用可能なサービス等の情報といった、当団体事業の利点を活かした情報提供を行える体制づくりを整えた。



五島市では、2018年から都市部在住のビジネスパーソン向けの「ワーケーション」を年数回開催している。さまざまな地域課題に対して、企業・行政・地域事業者が連携し継続的にコミットするきっかけを創出することを目的としている。



島内での滞在先や各協力会社等の情報を集約し、島外事業者へ提供する

③職人向けワーケーションモデル事業の実施
団体及び島内事業者を通じて島外連携事業者へ工事発注し、モデル事業を実施。実施後、職人や当該連携事業者へヒアリング等を行い、フィードバックした上で本事業モデルを構築。

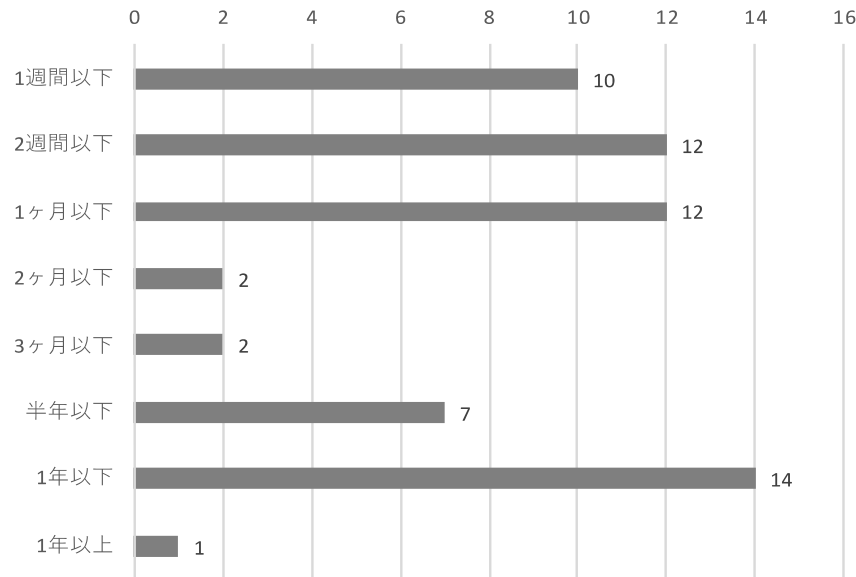
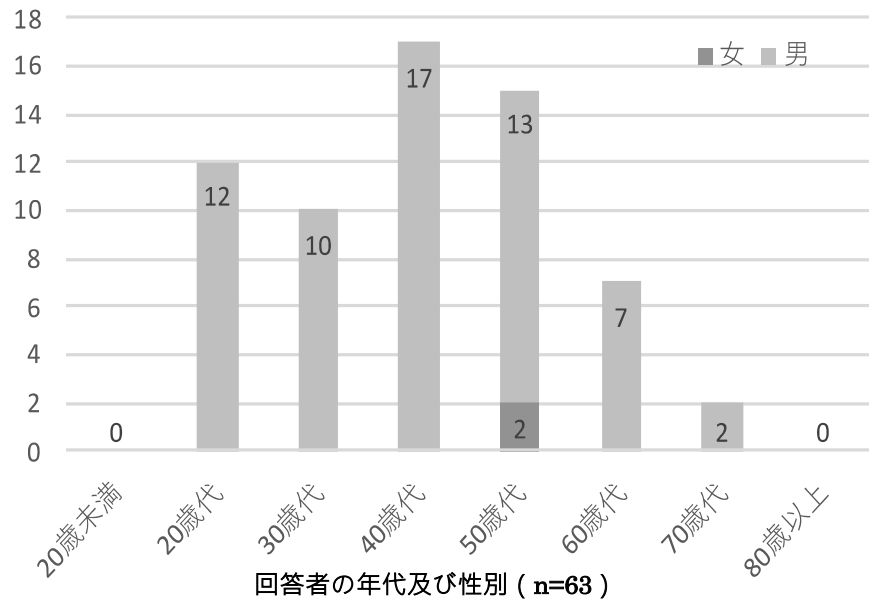
慢性化している大工不足に悩む島内事業者数社に対して、連携候補となる島外事業者を当団体が仲介する形で紹介を行った。その中から実際工事請負契約が合計5件（発注先は3社）まとまった。当団体は、受け入れの宿泊先の情報提供と調整、島内の電気設備・水道設備等の関連工事業者の紹介も行い、交流会を企画する等、工事現場以外でも島内外事業者の交流が図れる場づくりを行った（下図参照）。
職人が来島しやすい環境づくりの足掛かりを得るため、上記に参加した職人を含み五島に来島している、来島経験がある島外職人（右図参照）に対してアンケート調査及び補足的なヒアリングを実施した。
普段（島外）と島内（五島）双方の仕事及び生活環境に関する満足度を仕事環境、職場風土、処遇、生活環境の面から問うた結果は以下が考察できた。
・仕事環境に関しては、資材調達等でやや不利になる可能性がある。
・職場風土、処遇に関しては島外、島内に大きな差はない。
・生活環境に関しては、全般的に島内が不利になる可能性が高い。
以上より、現時点で現実可能な改善策として、生活面の充実を図ることが必要であり、まず持って行政等とも連携した生活利便施設やレジャー等の情報提供、島内職人とのコミュニケーションの場を持つことによるさらなる情報伝達の促進が求められる。



島外職人の島内現場での仕事風景



島内職人と島外職人の交流会風景

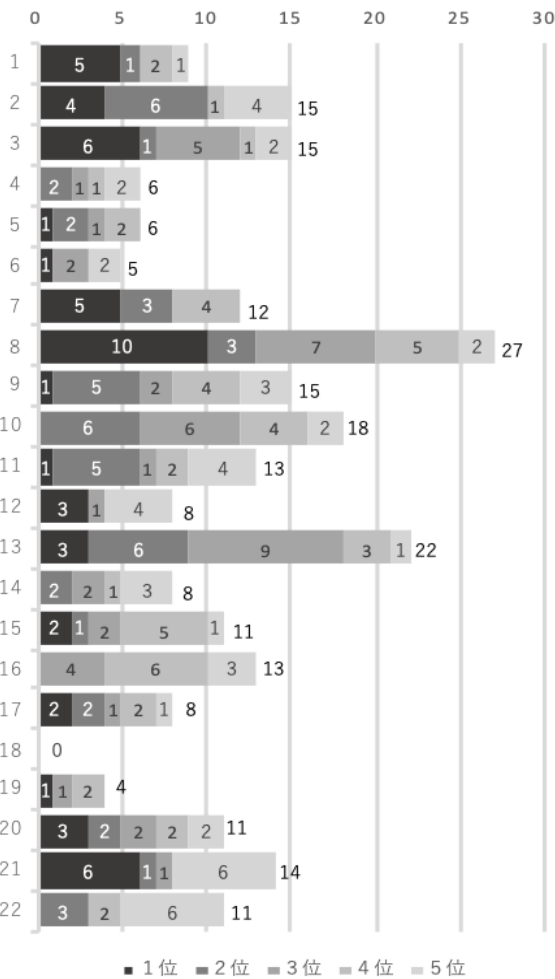




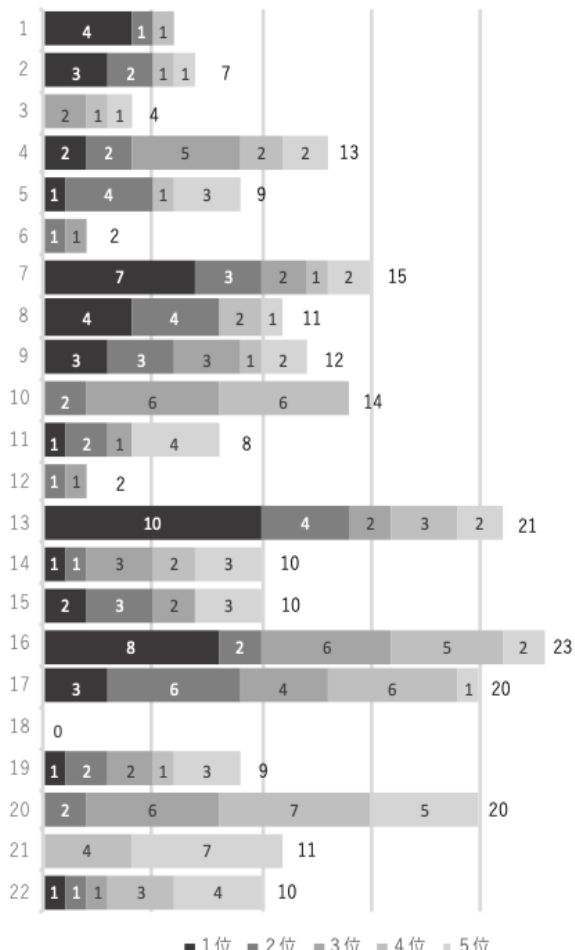
島外(普段)と島内(五島)での仕事の満足度(n=66)

		島内	島外	総合評価
仕事	1仕事内容	45	48	-3
	2仕事量	28	28	0
	3知識技術	41	51	-10
	4資材工具	-24	38	-62
	5現場距離	49	24	25
	6仕事調整	4	28	-24
	7継続性	5	37	-32
職場風土	8職人関係	52	43	9
	9現場関係者	50	48	2
	10現場雰囲気	52	48	4
	11安心安全	37	41	-4
	12モラル	21	38	-17
処遇	13給与	29	22	7
	14評価	37	36	1
	15労働時間	24	13	11
生活	16利便性	-8	55	-63
	17快適性	3	51	-48
	18居心地	17	48	-31
	19生活費	2	33	-31
	20余暇時間	10	49	-39
	21家族	-32	44	-76
	22交流	24	49	-25
	23総合満足度	22	43	-21

島外(普段)と島内(五島)の総合評価の差



■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位
工作上優先したい項目(n=59)



■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位
島外で仕事をする上での条件(n=59)

④職人研修プログラムのプランニング

次年度以降の発展を見据えて、③に加えて島内事業者や職人へのヒアリング、フィージビリティスタディを含めた職人研修プログラムのプランニング。

- ヒアリング等の結果、以下のプログラムの可能性がうかがえた。
- 1) 業界団体のつながりを元にした島外・島内事業者の職人交流会
 - 2) 島外事業者を招いての島外職人向け技術研修プログラム
 - 3) 移住希望の新規就労職人の島内事業者への斡旋支援及び研修